

原子力安全専門部会における審議状況報告

原子力安全専門部会では、平成25年7月8日に提出された四国電力(株)伊方3号機の事前協議について、論点を整理(別紙参照)し、審議を行うとともに、現地調査を実施してきた。

これまでの部会における伊方3号機の審議概要は、以下のとおり。

<審議及び現地調査状況>

- 平成25年7月17日
 - ・ 原子力規制委員会から新規制基準の概要を聴取
 - ・ 四国電力(株)から伊方3号機原子炉設置変更許可申請等の概要を聴取
- 平成25年9月11日
 - ・ 今後の審議の進め方について議論し、論点を整理して重点確認項目を決定
- 平成25年10月16日
 - ・ 原子力規制委員会における審査状況及び現地調査の確認事項
 - ・ 更なる揺れ対策に係る取組みの評価方法について確認
- 平成25年10月17日(現地調査)
 - ・ 論点及び追加安全対策に係る施設・設備
- 平成25年11月19日
 - ・ 自然現象に対する考慮(火山、竜巻、森林火災)、火災に対する考慮、電源の信頼性
- 平成26年1月28日
 - ・ シビアアクシデント対策
- 平成26年1月28日(現地調査)
 - ・ 代表的な事故進展シナリオにおける対策の有効性に係る訓練
- 平成26年3月20日
 - ・ 耐震・耐津波性能

<主な委員コメントの例>

- 森林火災のみ、竜巻のみといった単発的な想定ではなく、自然現象の重畳について、積極的に考えていただきたい。
- シビアアクシデント対策について、各種事故シナリオの中に、主要な対応措置がどれくらい含まれているかを示して欲しい。
- 訓練において、各現場班が全体の流れを把握できるような本部とのコミュニケーション方法の改善等が必要。

原子力安全専門部会における審議の論点

新規制基準により追加された以下の機能、性能等のうち、下線部について、重点的に確認していく。

I 強化された基準

1 大規模な自然災害への対応強化

- ① 耐震・耐津波性能
- ② 自然現象に対する考慮（火山、竜巻、森林火災）

2 火災・内部溢水・停電などへの耐久力向上

- ① 火災に対する考慮
- ② 内部溢水に対する考慮
- ③ 電源の信頼性
- ④ その他の設備の性能（モニタリング）

II 追加された基準

1 シビアクシデント対策

※代表的な事故進展シナリオにおける対策の有効性を確認

- ① 炉心損傷防止対策
- ② 格納容器破損防止対策
- ③ 放射性物質の拡散抑制対策
- ④ 指揮所等の支援機能の確保

2 テロ対策

- ① 意図的な航空機衝突への対応